

映像リテラシーの教育実践を探求する

- <企画者> 村野井 均 福井大学教育地域科学部
大野木 裕明 福井大学教育実践指導センター
- <司会> 大野木 裕明 福井大学教育実践指導センター教授
- <話題提供>
- 市川 克美 番組制作者から見たメディアリテラシー
NHK名古屋放送局制作副部長
- 村野井 均 子どもはお笑い系暴力番組をどう認識しているか
福井大学教育地域科学部助教授
- 渡辺 輝幸 ニュースが選択されていることを知る実践
福井市円山小学校教諭
- 高橋 賢哉 全校一斉「メディアの時間」の取り組み
丸岡町立丸岡中学校教諭
- <指定討論>
- 無藤 隆 お茶の水女子大学教授

あいつぐ青少年事件やいじめなどの背景要因として、テレビの影響が言われている。1998年には、中央教育審議会がVチップ制度の導入を提言した。この制度は、番組を暴力や性描写の程度によってランクづけし、各家庭ではテレビ受像器に組み込まれたVチップ（バイオレンスチップ）にランクを設定することで暴力や性のシーンを映らなくすることができるというものである。しかし、番組の事前検閲になることやVチップの効果に疑問が出され「継続検討」となった。

つまり、日本でも、映像のメディアリテラシーは市民や教育の力で育成することになったといえる。学校と教育心理学はこのような要請にどう答えたらよいのであろうか。番組制作者、心理学研究者、教育実践者が集まって考えたい。

放送関係者は、リテラシー育成に大きな期待を寄せている。メディア・リテラシーを取り上げた番組も増えている。NHK名古屋放送局の市川克美氏は、教育に期待を寄せている代表的な方である。

市川氏は、カナダ・アメリカのメディア教育を現地調査して来ており、「メディアリテラシー—メディアと市民をつなぐ回路—」（NIPPORO文庫、1997）の編者でもある。また、小学生を対象にした巡回移動スタジオ「ユメディア号」の開発にも携わった。「ユメディア号」は、子ども達が放送の仕組みや撮影現場を体験できる設備をそなえており、放送局側からメディアリテラシーを育成しようとする試みともいえる。現在は「中学生日記」の制作にかかわっている方である。

制作側からリテラシー研究・実践への期待や社会的要請について語っていただく。

心理学からは、福井大学の村野井が「めっちゃめっちゃイケてる」（フジテレビ系）という番組の理解について報告する。

巨大ハリセンで顔をたたく「スタンプ」のコーナーを初めに視聴させ、2度目は音ありと音なしに群分けして視聴させた。効果音によって、暴力的なシーンでも笑わせられていることへの気づきをとりあげる。被験者は、小学2年生、5年生、中学2年生、大学生247名である。

つまり、この研究は、主旨さえ理解してもらえば小・中学校でお笑い系番組を使えることを示した。問題となる番組をすぐに児童、生徒に見せ、その結果を公表したり、番組制作者に提示することでテレビの悪影響を減らす協力体制が組めるのである。

教育現場からは、メディアリテラシーの実践を渡辺氏、高橋氏に紹介していただく。両者とも、学校や教科の枠を越えた実践であり、教育心理学が果たすべき役割は何か考えさせられる実践である。

渡辺輝幸氏は、ニュースの価値と選択に関する実践を小学5年生の授業で行った。円山小学校の稲刈り行事が取材を受け、テレビで放送される予定であった。しかし、ダイアナ妃の交通事故死のために地元テレビ局で放送されなかった。「なぜ放送されなかったのか」という問いを学習課題にして、各種報道を調べたり、アナウンサーへインタビューを行い、ニュースは情報の価値や影響の大きさによって選択されていることを知るまでの実践である。

高橋賢哉氏の在職している丸岡中学校では、ゆとりの時間を利用して「メディアタイム」を設け、映像リテラシーの育成を試みている。1年生から実際

の番組を見て映像段落や構成を学び、まずイラストを並べ替えてストーリーを作る「四コマ、イラストストーリー」や「4枚の写真による構成」といった静止画による構成を行う。その後、CM作りを行い、2年生はニュース番組作り、3年生でドキュメンタリー制作へと発展させている。また、作品を丸岡町のビデオコンクールに出品し、学校情報を地域へ発信するという視点を持っている実践である。

メディアリテラシーの実践は、日本ではまだ数が少なく、手探りで行われている。今回のシンポジウムでは、どうやってメディアリテラシーの実践を作り上げてゆき、教育現場、番組制作者、研究者の協力体制を作ってゆくか話し合いたい。

<参考文献>

- 市川ら編 1997 「メディアリテラシー—メディアと市民をつなぐ回路—」
NIPPORO文庫
- 市川克美 1999 「コミュニケーション革命・メディアリテラシー総合的な学習・情報教育をどう展開するか」
(明治図書)
- 高橋賢哉 1998.6 全校一斉「メディアタイム」による映像リテラシーの育成
「放送教育」 日本放送教育協会
- 村野井ら編 1999 「学校と地域で育てるメディア・リテラシー」 ナカニシヤ出版
- 渡辺輝幸 1998.10 情報活用能力を育成する情報ステーションづくり 「実践 総合的な学習の時間」 高階怜治編
図書文化